

# 有機農業技術のつぼ

【NO. 8】

作物名	大豆
対応技術の項目	除草技術
	物理的防除法
	機械除草

## 《情報収集先の経営概要等》

帯広市 福島 隆博 経験年数40年（うち有機年数13年）  
 経営耕地面積 30.00ha（うち有機面積 6.00ha）  
 小麦 3.00ha 大豆 0.70ha  
 小豆 1.50ha 金時 0.70ha  
 労働力 構成員1名  
 有機JAS認定の取得状況（H20年取得）

### 問題点

#### 雑草対策

- 効果的な雑草の防除・抑草対策が見いだせなかった

### 対応

#### 機械除草の実施

つぼ

- は種前にロータリー耕を5回実施
- は種後、出芽前にカルチによる中耕を2回実施

#### ※ 対応技術活用上の注意点

- ロータリーは耕起深10cm程度、高速稼働OK
- 出芽後のカルチは根際まで実施することが重要である。
- ポイントとしては、地表面から3cmの土壌の移動を行っている。（6回程度の実施）
- 雑草が地表面から発生するとタインに雑草が多く付くので、機械の雑草除去が大変である。
- 雑草は乾燥年では地下部で根量が多く、湿潤年では地上部に早くから発生してくるので、ほ場の観察と天候の動向に注意しながら対応する。



### 成果

#### ほ場における雑草量が大幅に低減した

- 無除草区 → 1,585.0本/m<sup>2</sup> (100.0)  
 除草区 → 12.3本/m<sup>2</sup> (0.8)

【参考】

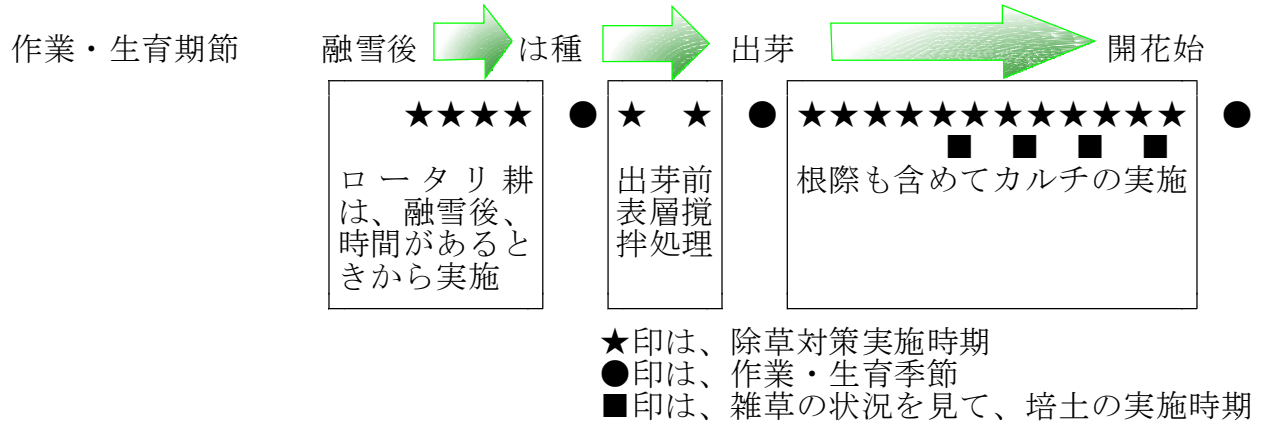


図1 除草のイメージ体系

福島氏は、トラクター直装タイプでなく3輪カルチを利用している。  
理由は、トラクター直装タイプだとカルチはトラクターの後方にあり、振り返らないと作業状況が見えない。一方、3輪カルチだと前方にカルチがあり、株際までカルチを実施することができる。



は種前のロータリー耕



出芽後 中耕後の状況



本葉出葉後 中耕後の状況



中耕培土機 イーグル羽根